

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イチゴのナミハダニの各種薬剤に対する感受性（技術情報第10号）について
（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

県内のイチゴ産地ほ場で採取したナミハダニにおいて、複数の農薬に対して感受性の低下が疑われる個体群が確認されました。ナミハダニの防除においては、薬剤の効果を確認し、ローテーション散布に努めましょう。

1 目的

近年、県内のイチゴ産地のほ場ではナミハダニの多発傾向が続いており、薬剤感受性の低下が疑われている。そこで、防除対策の基礎資料とするため、県内のイチゴほ場でナミハダニを採取し薬剤感受性検定を行った。

2 検定方法

- 1) 供試虫採集年月：平成24年 5月
- 2) 供試虫採集地点：玉名市（2ほ場）、八代市（2ほ場）
- 3) 供試薬剤：コロマイト水和剤、ダニサラバフロアブル、マイトコーネフロアブル、スターマイトフロアブルの計4剤を供試した。
※供試濃度は、常用濃度とその3倍希釈濃度で行った。
- 3) 検定方法：リーフディスク法で検定を行った。

3 検定結果

- 1) コロマイト水和剤は、一部の個体群で常用濃度で補正死虫率が80%以下、3倍希釈濃度で補正死虫率70%以下であり、感受性の低下が疑われた（表1）。なお、本剤は前回の調査（平成21年）でも一部で感受性低下は確認されていた（図1）。
- 2) ダニサラバフロアブルは、常用濃度の補正死虫率70%以下であり、10%以下の個体群も認められた（表1）。今回採取された個体群では、前回の調査（平成21年）に比べて、補正死虫率が低く、感受性低下が確認された（図1）。
- 3) マイトコーネフロアブルは、常用濃度の補正死虫率が全ての個体群で90%以上であった。3倍希釈濃度で補正死亡率80%以下の個体群も認められ、一部の個体群で感受性の低下が疑われたが、前回の調査（平成21年）と感受性に変化は認められなかった（図1）。
- 4) スターマイトフロアブルは、全ての個体群で常用濃度の3倍希釈濃度の補正死虫率が95%以上であり、感受性の低下は認められなかった。

4 防除対策

- 1) 今回の結果を参考に、防除計画を立てる。ただし、地域やほ場により薬剤感受性は異なるため、試し散布により防除効果を確認する。
- 2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。（系統分類は、熊本県防除指針を参照）
- 3) 感受性の低下が疑われる薬剤は、使用回数を1回にして感受性低下を防ぐ。
- 4) 物理的気門封鎖剤の併用や天敵を活用したIPM体系を心掛ける。

表1 イチゴのナミハダニに対する各種薬剤の補正死虫率

	各薬剤による補正死虫率(%)							
	コロマイト水和剤		ダニサラバフロアブル		マイトコーネフロアブル		スターマイトフロアブル	
	常用 (2000倍)	3倍 (6000倍)	常用 (1000倍)	3倍 (3000倍)	常用 (1000倍)	3倍 (3000倍)	常用 (2000倍)	3倍 (3000倍)
玉名1	84.5	69.0	18.7	42.7	100.0	74.8	100.0	100.0
玉名2	96.2	100.0	7.4	0.0	98.1	83.0	100.0	100.0
八代1	92.5	85.1	65.0	37.9	100.0	71.1	100.0	98.4
八代2	71.5	65.6	1.4	15.9	91.2	94.1	100.0	96.8

1) 検定はリーフディスク法で行った。採集した雌成虫をインゲンマメ葉片上に12頭放飼し、3日間産卵させた。雌成虫を取り除いた葉片を所定濃度の薬液に約10秒間浸漬処理し、処理後25℃で管理した。処理7日後に生虫数、死虫数、死卵数を計数し、補正死虫率を算出した。供試卵数は50個以上で、1薬剤1反復とした。

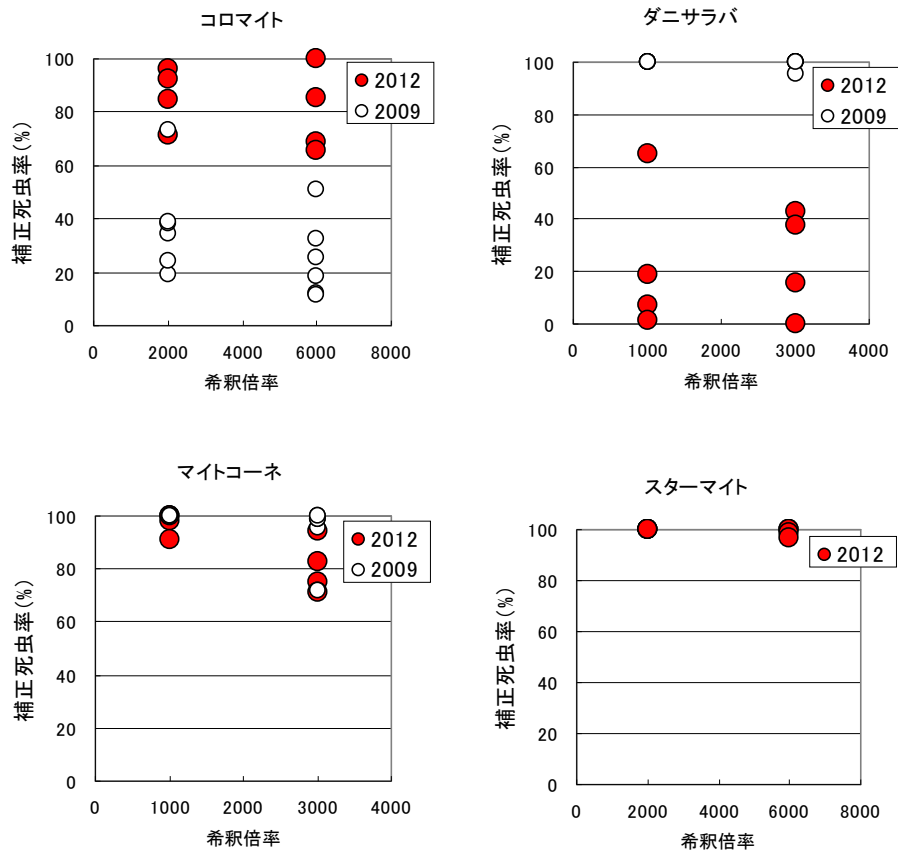


図1 イチゴのナミハダニに対する各種薬剤の補正死虫率の変化

※なお、本文はホームページ「<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>」上に掲載しています。

熊本県農業研究センター
 生産環境研究所 病害虫研究室
 担当：荒木、児玉
 TEL : 096-248-6490
 FAX : 096-248-6493